

く吸う。

写2-21 メジロ（留鳥）



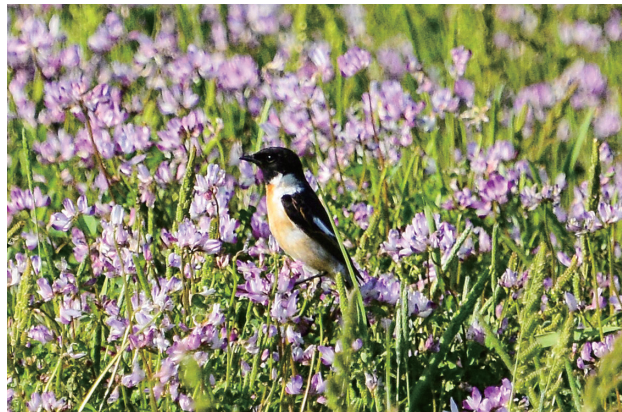
市街地近郊の女島や小島、津志河内などの干拓地や農耕地では1年を通してホオジロやキジバト、ヒバリなどの身近な鳥が多くみられ、冬季にはツグミ（写2-22）やアオジ、ミヤマガラスなどの冬鳥が越冬する。

写2-22 ツグミ（冬鳥）



また春や秋の渡りのシーズンにはノゴマやノジコ、ノビタキ（写2-23）などの旅鳥が立ち寄り、エサの補給をしている。女島や小島、津志河内には頻繁に珍しい鳥が出現するため、渡りのシーズンなどにはたくさんのバードウォッチャーが訪れて野鳥観察を楽しんでいる。

写2-23 ノビタキ（旅鳥）



城山は市街地のすぐ近くにある自然豊かな森で、ヤマガラ（写2-24）やエナガ（写2-25）、メジロなどの森林性の鳥が1年中みられる。これらの鳥は春から夏にかけてペアを作り、縄張りを持って繁殖を行う。幼鳥が巣立ったあとはこれらの種類が異なった鳥と一緒に群れをつくり冬を越す。シジュウカラやヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラなどの群れは「カラの混群」と呼ばれる。

写2-24 ヤマガラ（留鳥）



写2-25 エナガ（留鳥）



冬季にはシロハラやミヤマホオジロ、ジョウビタキなどの冬鳥の良好な越冬場所ともなっている。

（５）里地里山

佐伯市の自然環境の中でも広い範囲を占める里地里山は、山岳地帯の森林部と人の活動が集中する市街地との中間に位置する地域であり、中小河川の水辺や水田・畑地などの農耕地、神社林や人家近くの雑木林などから構成されている。

写2-26 宇目



農業や林業などにとまなう人の様々な活動により形成、維持されてきた里地里山は、自然環境が多様で多くの生き物が暮らす所である。水辺ではキセキレイやカワセミ、ヤマセミなどが生息し、農耕地ではスズメやムクドリ、アマサギ(夏鳥)、キジ(写2-27)、ミヤマガラス(冬鳥)などがみられる。神社の森ではフクロウや夏鳥のアオバズク(写2-28)が営巣する。森林部では、ヤマガラ

写2-27 キジ(留鳥)



写2-28 アオバズク(夏鳥)



やコゲラ、ウグイス、サシバ(夏鳥)、サンショウクイ(夏鳥)などが生息している。

（６）山地

山地は標高1,605mの傾山を最高峰に、標高1,000mを超える新百姓山や夏木山などが県境に連なり、また佐伯市北部には標高600mを超える佩楯山や彦岳が連なる。

標高の高い山地の森林には、ヒヨドリやエナガ、メジロなどの森林性の留鳥に加え、夏鳥のサンコウチョウ、オオルリ、センダイムシクイなどがみられる。

写2-29 傾山



猛禽類では、タカの仲間のクマタカ(写2-30)が周年生息している。クマタカは山地の森林に生息する大型のタカで、森林生態系の頂点に位置する生物である。季節的な移動はせずに一年中同じ地域に留まる。翼を広げると1m50cmほどになり、